



新緑の大矢田神社

# そまっぷ



〒501-3781  
美濃市片知 1109-4  
森づくり片知支援センター  
TEL/FAX 0575-37-2115  
Mail: info@somanomori.or.jp  
NPO 法人 柚の杜学舎

## 生活に身近な山の木をつかう



### A C C R A F T

#### 石井学・石井愛

美濃市内うだつの上がる古民家の裏、かつて紙業会社が使用していた2階建ての空き倉庫を借りました。1階で木工作業、2階で家具の展示と事務仕事ができるように改修し、平成15年秋に家具工房 A C C R A F T をスタートさせました。手探り状態の中ではありませんでしたが、お蔭様であれから3年半、活動を続けることができました。そんな短い期間にも世界情勢はめまぐるしく変化を続け、来年開催される北京オリンピックに向けた建築ラッシュの駆け込み需要が、金属同様、木材の価格をも跳ね上げていく、なんて話も耳にするようになりました。それ以

外にも、大手家具メーカーがスギブランドを立ち上げるなど、家具に用いられている木材の世界でも、さまざまな変化が起っています。

A C C R A F T は、木で家具を製作する工房です。木でものを作るにあたって、自然との関係を断ち切つて考えることはできません。かつて、日本人は身近にある自然を無駄なく上手に工夫して、生活の道具や住まいを作ってきました。自然との関係を上手く築くことが、より人間らしい(日本人らしい)暮らしを生み出すのではないかと考えています。そして今の私たちがすべきは、今ある自然が生み出した素材をいかに無駄なく上手に工夫して、現代人の生活に寄り添うものをつくるか、ということだと思っています。

これらの考えを踏まえ、A C C R A F T では人工林の針葉樹(スギ・カラマツなど)を用いた「身近な山の木シリーズ」という家具を製作しています。

針葉樹の家具について、まず短所は素材が柔らかく傷がつきやすいということです。その反面、その柔らかさが手触りを柔らかくし、傷やへこみに関しても人工の素材に囲まれて生活してきた世代の人達からは、「それでも本物の素材を使い、感じたい。」という意見なども聞こえてきます。いつも、そのような声にはとても勇気付けられます。

そのように時代や人の感性は変化していきますが、作り手側からの意見として、素材に向き合ったときのことを例に出すと、以前、70年生の年輪の緻密なスギを加工したとき、鉋(かんな)がけや面取りなどの加工のしやすさに加え、その仕上がり感をみて、



「身近な山の木シリーズ」

「このような材があれば、スギは誰もが使いたくなる材になるだろう」と感じました。今更ながらですが、家具材には建具と同様、木目が緻密で大きな節の無い材が向いているということは事実です。今、森林で成長過程にある人工林の木は、樹齢70年を迎えるころ、どのような材になっているのでしょうか。心配でもあり、楽しみでもあります。素材を生産する側の方には、そのような用途にあつた素材作りを期待しています。

数ヶ月前に、「合板や集成材にスギを用いることにより、日本の木材の自給率が2割を超えた」という嬉しい新聞記事を目にしました。間伐材などの材が合板などあまり材質を問わない目的に有効に使用

される。そして、しっかりと施業された品質の良い材が少しでも多く育ち、建築や家具や建具などに使用される。このように、森林の木々がバランスよく使用され、人と森林のサイクルができる日がくることを願っています。

今後、家具にどのような木を採用していくべきかと、日々考えています。少なくとも数十年は、スギ、カラマツ、ヒノキなどの人工林に育つ針葉樹材を、積極的に使用していくのが良いだろうと思っています。何とか工夫して材の特徴を活かし、使用していくことで、現代の日本独特のものが出来てゆき、それが地域のスタイル、日本のスタイル、文化を創り出していくのだろうと、信じています。

(AC CRAFT <http://www.accraft.com/>)

## 片知渓谷レポート

栃川 孝弘

### ― 寂しげな木 ―

2年目の片知川調査釣行はカワゲラウオッチ主体でスタート、予想通り水質はきれいでした。しかし急峻な上流域はともかく、奥板山近くでも種を問わず個体数が少ない、逆に昨年はあまり見なかつた成虫が目立つ等の意外な事も発見、まだまだ片知詣では続きそうです。

発見といえば片知渓谷に「寂しげな木」があります。もちろん案内には載っていませんが、ある家族にとっては4年前から年に数回訪れる度に会いに行く(という表現でした)木だそうです。たまたま来て偶

然見つけた木に子供たちが名付けた、紅葉の季が一番という話でしたが、この家族を片知渓谷に呼び寄せているのは「寂しげな木」なのでしょう。

この日、おそらく初めて(荷物の様子から)のフライフィッシングで訪れたであろう車がありました。かつて自分がそうであったように胸躍らせロッドを振る姿とともに、期待が次第に萎んでいくままに終わってしまう一日を思い浮かべつつ帰路につきました。写真はその初心者も通つたはずの「もみの木の淵」と名付けた所です。釣人の視点で溪を辿り近付いた時、この淵はオーラを発します、そして渓魚が姿をみせれば最高の写真になるのですが、肝心の魚を見ることがありません、そこで遊歩道調査のついでに撮影したこの風景が、今の私にとっての「もみの木の淵」というわけです。

後日かの「寂しげな木」を探し写真にも収めました。しかしその木

はかの家族だけのものにしておきたいと思えます。ただおそろく

「すしサミシウ」と口にした当時幼稚園児だった子供の感性和直感力に驚かされたことは記しておきます。



こちらは「もみの木の淵」





## 二本のドキュメンタリー映画と

### グローバリゼーション

先号、この欄で地球温暖化問題について取り上げました。それから間もなくして地球温暖化をテーマにした「不都合な真実」というドキュメンタリー映画が公開されました。(ご覧になった方も多いと思います)が、(クリントン米大統領政権時代に副大統領を務めたアル・ゴア氏が、全米から世界各地で行ってきた地球温暖化を始めとする環境問題についてのスライド講演を追った作品です。今年のアメリアカデミー賞長編ドキュメンタリー賞等多くの賞を獲得しました。京都議定書を批准していないアメリカ本国の映画賞を獲ったことが皮肉にも思えます。2000年の米大統領選挙で、現在のブッシュ大統領ではなく、アル・ゴア氏が選出されていたら、世界的に温暖化対策が大幅に進んでいたかもしれません。

地球温暖化について自分自身もテレビや新聞等でかなり知識は得ている方だと思つていますが、この映画の中で、ヒマラヤやキリマンジャロ、グリーンランドの氷河や棚氷が溶け出している映像等を見せつけられると、改めて地球温暖化が待ったなしの状況まできていることを認識させられました。さらに地球温

暖化についてまだよく解っていない、知らないことが多いという人達も、この映画を見れば、危機感を持ち、自分達も何か行動を起こさねばという思いを抱くようになるんじゃないかなとも思いました。

また、ほぼ同じ時期に公開されたドキュメンタリー映画がありました。それは「ダーウィンの悪夢」という、こちらも国際的な問題提起をしている作品です。

(この映画も多くの国際映画祭で賞を獲得、2006年度アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞にもノミネートされました。)内容は、アフリカのヴィクトリア湖に半世紀程前、ナイルパーチという本来そこには居なかつた大型肉食魚が放流され、在来の魚を駆逐していきました。(ヴィクトリア湖は元々、ダーウィンの箱庭と呼ばれる程、生物多様性の宝庫であつたそうです。)この状況は日本におけるブラックバスやブルーギルの問題と似ていますね。しかし、ヴィクトリア湖ではもつと様々な現象が起きました。このナイルパーチは食用白身魚として一大魚産業を生み出し、周辺地域の経済を潤しました。しかし、生物多様性に富んでいた湖の環境は悪化、経済的格差が拡がり、貧困、売春、エイズ、ドラッグ、ストリートチルドレン等の連鎖的な悪夢をも、もたらしました。その現状の様子を、そこに生きる様々な人達へのインタビューを通して、映画に映し出していきます。

そして問題の発端となつているナイルパーチは食用としてヨーロッパや日本等の先進国に輸出されています。(スーパーの味付商品やレストラン、お弁当、給食等の白身魚フライに使われているそうです。おいしい

本体部分は先進国の人間が食べ、頭や尾のようなアラとして捨てられる部分は現地の貧しい人達が食べるという状況も辛辣に描かれています。)グローバリゼーションという言葉が当たり前になつている現在、決して遠い国の出来事ではないのだと映画は訴えています。

この二つのドキュメンタリー映画は映像の雰囲気も違い、片や地球的規模の環境問題を取り上げた作品であり、片やアフリカの一地域の状況を映し出している作品と、それぞれ違つた映画に思えます。しかし、どちらの作品も、取り上げているテーマは世界的な問題として捉えられるべきものであることを感じずにはいられません。今やグローバリゼーションという言葉の下に世界の人間はお互いが何らかの関わりを持たざるを得ない状況にきているようです。地球温暖化は世界的規模で取り組むと同時に一人一人の努力も必要となつてくるので、行動が起しやすいのに対して、「ダーウィンの悪夢」が訴えていることにはどう行動すればよいのか、正直、すぐ答えを出すのは難しいです。しかし、知らないうちに何かに巻き込まれているのではなく、少なくとも「知つておく」ことだけでも必要ではないでしょうか？

映画は確かにバーチャルなものです。それを観ただけで満足してしまつてもいけないとは思いますが、そこに行かずとも「知る」ことができるものでもありません。もう少ししたら、これらの作品もビデオになるでしょう。機会があれば、是非一度、観てほしい作品です。

(山中 亘)

## 【活動報告】二〇〇七年（冬・春）

### ●「以安寺山景観形成整備工事」

#### 2006年度事業完了

2005年度から整備をはじめた以安寺山景観形成整備工事の第2期工事が完了しました。2期工事は周回歩道の整備とヒノキ林の間伐、危険木の伐倒、広葉樹の整理伐採を中心に整備を進めました。整備前は藪化し、荒廃が進んでいた以安寺山ですが、歩道の整備や荒廃竹林やヒノキ林の整備をすることによって美濃市の市街地に豊かな森林空間が生まれました。



以安寺山周回歩道

なによりも、近所の人たちが以安寺山に再び足を運んで昔を懐かしんだり、以安寺山のファンになったという山歩き仲間の方がハイキングしたりする姿を

みると整備を手がけてよかつたなと思います。今年度は歩道の土留め柵の設置やヒノキの枝打ちを計画しています。また、今年で最後の実施となる「みの森林塾」の実習地として利用させてもらいます。

### ●間伐事業

杉の杜学舎の中心事業である間伐による人工林の再生活動も2006年度は、美濃市を中心に約37ヘクタールの間伐を実施することができました。

特に、美濃市の蕨生（わらび）地区では中濃森林組合との協働による間伐説明会の開催を契機に、間伐の必要な人工林を山を歩いて拾い出し、個別に所有者を訪問するなどの地道な活動により20名以上の所有者から間伐実施の依頼を受けました。



蕨生地区間伐実施地

小面積所有者の山林を地域で取りまとめることにより、作業の効率化も進めることができました。

美濃市の年間間伐実施面積約100ヘクタールのうち37ヘクタールを杉の杜学舎で作業実施できたことは、当法人の目標とする地域の管理不足人工林の再生に少しは貢献できたものと自負しています。

今後更なる工夫をこらしてこの事業の進化を図っていくつもりです。

（鈴木章）

### 編集後記

一雨毎に山の緑が濃くなっていく、自然の息吹が感じられる季節になりました。巻頭写真は昨年私たちが整備した美濃市大矢田神社の参道です。もみじをさえぎる常緑低木の除伐や枯木、蔓の除去などを行っています。またこれまで手付かずだった散策路が歩きやすくなりました。紅葉で有名な大矢田神社ですが、秋だけでなく新緑が萌えるもみじも歩いてみませんか。お勧めです。

巻頭記事では、木を使っている立場から家具工房AC CRAFTのお二人に寄稿していただきました。「人と森林のサイクルができる日がくる」ように、山側も努力していかなければなりません。間伐事業を始め、私たちの活動を深めていきます。

さて記事にもあるようにAC CRAFTは美濃市のうだつの町並みにあります。作り手の温かさが家具ににじみ出ているような二人の店にもぜひお出掛けください。

（小泉）